

科目コード 315218a 配当学年 3・4

科目名 思春期青年期心理学

教員名 猪股 剛

【授業の目的】

人間の心理・行動・社会の諸現象を理解・分析するために、学生が他者に共感的に関心を持ち、他者を尊重しながら、心理学の専門的知識を習得する。特に思春期から青年期の心身両面の発達を知り、心理的な課題や病理を知ると共に、その知識によって社会のさまざまな情勢を分析すると共に、その知識を正しく他者に伝えることができることを目標とする。

【到達目標】

- ①思春期青年期の心理を積極的に学び、発達の課題に則して自己や他者を理解する力を身につける。
- ②思春期青年期心理の知識を用いて人間の心や行動や社会について理解し、それを他者に分かりやすく説明することができる。
- ③思春期青年期の心理学的理解により、その時期の人間の行動や家族の課題を共感的に理解することができる。
- ④思春期青年期の心理学的理解により、現代人の特徴と課題を理解し、思春期青年期の深層心理学的なイメージ表現を知り、その特徴を理解できるようになる。
- ⑤

【授業概要】

思春期青年期とは、それまで子どもとして生活してきた人間が、主体性を持って自分自身の人生を歩み始める時期である。しかも、学校・家庭・社会の三つの生活領域を同時に持ちながら、それぞれを生きる課題を持つことになる極めて複雑で変化に富んだ時期である。この授業では、思春期青年期の課題や病理を一つ一つ取り上げながら、私たちの中に生きている少年少女性にあらためて思いを馳せて、共感的に理解していく。

【授業の進め方・授業手法】

講義はパワーポイントの提示により進める。単元の区切り毎にコメントシートを提出してもらい、それに対するフィードバックを行う。パワーポイントファイルや到達度確認準備資料はWebClassの教材倉庫に入れて配布する。最終回には「到達度の確認」を行う。

【準備学習】

- ・次回授業で扱う範囲について、配付資料を読み、参考書などで調べておくこと
 - ・前回の授業内容のノート等の内容を整理し、疑問点をノートにまとめておくこと
 - ・授業で提示した参考文献を読んでおくこと
 - ・授業終了時に実施するコメントシートを記入し内容を整理し理解すること
 - ・小テストの際には十分に復習し8割以上正答できることを目指すこと
- 予習毎回0.5時間、復習毎回0.5時間

【授業計画】

<授業形態>
全てオンデマンド

<授業計画>

- 第1回 思春期青年期のライフサイクルの意味
- 第2回 大人になることの難しさ-イニシエーション
- 第3回 エディプスコンプレックスと思春期
- 第4回 アイデンティティと青年期
- 第5回 不登校という現象(小テスト)
- 第6回 反社会的行動と「不良/ヤンキー」の心性
- 第7回 オタクとひきこもりの心性
- 第8回 食文化と摂食障害
- 第9回 自傷と自殺の心性
- 第10回 死の自覚と宗教性(小テスト)
- 第11回 思春期青年期と発達障害と統合失調症
- 第12回 コミュニケーションの過剰と思春期
- 第13回 家族と思春期
- 第14回 到達度の確認とまとめ

【フィードバックの方法】

コメントシートへの返答、確認シートによる専門用語の定着、および到達度の確認の解説によって行う。

【テキスト】

使用せず
(テキスト ISBN)

【参考文献】

授業中に随時提示する。

【オフィスアワー】

研究室前に掲示しているオフィスアワーの時間を確認してください。

【担当教員からのメッセージ】

思春期青年期心理学は、まさに皆さん自身がいま生きている心の状態だと思います。自己理解を深めると共に、この変化の多い時期の豊かな心の状態を学んでください。

【履修上の注意】

オンデマンドの出席条件は、授業当日20時までの課題の提出となります。課題の未提出や期限を過ぎての提出は欠席扱いとなります。

【実務経験のある教員による授業内容】

授業担当者は心理臨床の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、実践的な教育を行う。

【ディプロマ・ポリシーとの関係】

- 《関心・意欲・態度》
- 1. 社会を広い視野から理解し、社会に貢献する意欲と行動力を備えていること。(社会貢献力)
 - 2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。(自己理解力)
 - 3. 心身両面の健康性、ストレス・マネジメントの知識と実践力を持っていること。(健康管理力)
- 《知識・理解》
- 2. 社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会や課題を理解する力を持っていること。(社会理解力)
 - 4. 人間の心理・行動・社会の諸現象を心理学的に理解するための知識を十分に習得していること。
 - 6. 自らの進路に即した知識を見極め、社会で活躍するための素地を身につけていること。

評価方法

到達度の確認

小テスト

評価割合(%) 到達目標との対応

80 ①②③④

20 ②④